

# イ・テク らむ・ **知と技の発信**

[104]

岸本 崇氏（きしもと・たかし）73年生まれ。大阪大学大学院理学研究科数学専攻・博士課程修了。博士（理学）。日本学術振興会特別研究員、マックス・プランク数学研究所（ドイツ）研究員を経て、04年埼玉大学理学部。10年より現職。専門は代数幾何学。

流行に身を委ねて生きるのは  
気楽です。最先端を氣取つて格  
好をつけていれば良いんですね  
ら。でも何だかしつくりさせ  
ん。単にひねくれ者なのでしょ  
うか、私は、時代遅れと言われ  
ても、少々ズしている人・モノ  
に魅力を感じる性分です。そん  
な性分は、私の研究にも反映さ  
れていています。

では代数幾何学と呼ばれていま  
す。ざつくり言つと、局所的に  
多項式系で定義されている図形  
(代数多様体)の構造の解析に關  
心があるので…。

## ■代数幾何学

では代数幾何学と呼ばれています。ざっくり言うと、局所的に多項式系で定義されている図形（代数多様体）の構造の解析に関する心があるのですが…。

# ひねくれ者の幾何学

岸本 崇 大学院理工学研究科 准教授

外見にどうされない自由な発想を巡らせる事ができるということが、空想癖のある自分にはピッタリです。

とはいものの、代数多様体の心のうちを理解するのは一筋縄にはいきません。そこで色々な道具を援用します。代表的な道具としては、「代数群」と呼ばれるモノがあります。「代数群」を代数多様体に作用させると専門用語を用いて言います。が、直感的には「代数多様体」を輪切りにしていき、より小さい、より理解しやすい代数多様体を積み重ねたモノとして見るといった感じです。

■代数多様体をキャンバスに

この際、代数群の作用に関して、ある意味で不变な部分が重要になります。一般には代数多様体の部分集合や点は群作用に身を委ねて、じわーっと動いていくもののですが、中には微動だにしないひねくれ者がいます。

しかし侮るなれ、実はこの

マイノリティのひねくれ者達が全体の代数多様体を理解する本質になる場合が少なくあります。具体的な例を挙げてみると、スペースの余裕はなく、しかしながら巧く代数群作用を端的に表現することも難しい。

敢えて言つのであれば、代数群という概念は絵の具、代数多様体は少しクセのあるキャンバスで、絵の具をどのように具合的にキャンバスに塗りたくるのかという部分が群作用といった感じであろうか。

さうに、絵画の際立った特徴が、作用で不变な部分に対応しているように思われる。絵の具、

が全體の代數多様體を理解する本質になる場合が少なくあります。具體例を挙げてある程のスペースの余裕はなく、しかしながら巧く代數群作用を端的に表現することも難しい。

敢えて言つのであれば、代數群という概念は絵の具、代數多様體は少しクセのあるキャンバスで、絵の具をどのような具合にキャンバスに塗りたくるのかという部分が群作用といった感じであろうか。

さういふに、絵画の際立つ特徴が、作用で不变な部分に対応しているように思われる。絵の具、キャンバスは予め用意されるものだが、いかに描くかという部分が画家の腕・アイデンティティーの見せ所である。

■センス

同じ様に、代數群、代數多様體は用意しておいた上で、巧い作用を見つけることができるか？その作用に関して不变な部分を見つけることができるか？

もどり言えはそれら不变な部分に何らかの法則性を見い出すことができるか? という問い合わせに対し、いかにアプローチをして答えを導き出すかが、数学者に求められるセンスである。

せつかく面白い代数群を準備しても、肝心の代数多様体の選択を誤ると作用は存在しないことも多い。そういう意味では素材選びの勘・センス、また必要に応じて温故知新で先代の諸結果を踏まえて、素材の改良も求められることもしばしば。

たとえ巧くはなくとも、味・個性のあるような絵画を描き続けていきたい。今日も頭の中のアトリエに「もる」とします。

### 【編集者から】

【編集者から】  
本欄は埼玉大学で行われていて  
研究を紹介しています。この  
うな世界を知つていただけれ  
幸いです。

企業、団体商店街などの話題や情報をお寄せ下さい  
TEL 048・795・9161 FAX 048・653・9040